

百味講たより

大本山増上寺 法主 直筆

平成11年11月発行
発行所大本山増上寺
百味講講報企画部
発行者 吉野美喜夫

第4号



村上博了先生

村 上 博 了

見

聞

記

私は大正九年四月芝中学入学、山内丸山西側妙定院様から通学、六百年記念には浄土宗大年表を当時の山内は公園とは名ばかりで、巨木老木と寺院が散在、弁天池から清水が、丸山西側をキラキラと流れていた。妙定院西側赤羽川ではハゼ釣りの人多くいた。

増上寺三門前には、貝塚から移転前 千本松原の名残をとどめ、千本松原と呼ばれた松の老木が林を作っていた。三門前から増上寺大殿を拝むと、左手は南御靈屋、右手は北御靈屋と国宝九十六棟が林立、諸大名寄進の金灯籠が千に近く如法配置、庭に玉砂利が清々しく清楚な中にも、この世ながらの極楽淨土相で東京名物でもあった。

私は昭和五年大学卒業と同時

に藤本了泰先生から、皇紀二千六百年記念には淨土宗大年表を刊行したいからと編纂を依頼され、先ず東大史料編纂所の仏書各地寺院、特に増上寺日鑑記録文書を拝見など資料を収集して、山では道重大僧正、大島十三年には増上寺調査委員となれしかつた。十五年までに完了。

大僧正から三時に茶菓を拝しうれしかつた。十五年までに完了。十三年には増上寺調査委員となれしかつた。十五年までに完了。大僧正から三時に茶菓を拝しうれしかつた。十五年までに完了。

光明講、黒本尊講、縁山会、長寿会等の皆さんと親しくなる。当时私は「宗報」に本宗高僧二十七名、「淨土の友」には、二十五靈場の執筆もし、又増上寺御靈屋発掘係りでもあつた。御忌の練供養行事は増上寺諸行事の白眉で、都下行事の名物、当日唱導師は大門側淨運院宿坊から稚児行列は花岳院、唱導師り、山内境内無償譲与の経緯を作成、十九年に第一回増上寺史を刊行する。その後三十一年二月前執事長、宗務總長渡辺真海僧正が刊行。二十九年から国宝僧正が刊行。二十九年から国宝準じた配置、三門の三は私共の三毒貪（とん）瞋（じん）痴（ち）を、その結縁で洗い清め、

清淨体となつて三縁を生じ、新生となり、目出度往生ができるとするものである。三門下の石

置は武家時代の名残で増上寺以外の他山、他寺はない、

行列は庭儀式後、大殿階段を登り、その玄関までである。私の印象に残るのは第二国宝元版大藏經保存修理完了間近い、現大殿落慶行事である。その一は、落慶記念品として私の第二回増上寺史「増上寺史・村上博了著」と、大野大僧正の御染筆。次は余興としての徳川家康（東京タワー社長）が老中諸大名、奥女中衆を

ひきいた大行列の参詣時に、国師（代理、村上）が大殿階段下まで出迎い、大殿へ案内するシーンと百味講衆の御供物の行列である。行列の目玉は一、は奏楽一、は御供物である。法要の儀式に当たりいちばん気になるのは御馳走、特に我らが命の親である御供物は、誰も大いに気になる。百味講の方々が、大切な御供物を三宝にのせての行列は有り難い、落慶時は、御供物に紅白の飾りがついて、百味講の方々は、伴侍同様、袴姿にぶくすを付け、一見古式に準じた行列であつた。

増上寺諸堂配置が如法であつたように、練供養行事も又、古式ゆかしい有様であつた事は本当に有り難い事で、御供物の

入行は古式の名残である。伴侍同様に練供養行列は、増上寺が武家時代公方様菩提寺、將軍家菩提寺と仰がれた名残であつて、永く東京名物として残したい、それについても、毎年御忌につき百味講各位の勞に感謝の微意を捧げたい。又増上寺当局者各位の労をあつく感謝し、永く御供物のお練行列をお願い申し上げる。



奥女中衆の行列



先進役の村上先生

菓子談話



百味講幹事
安部 一郎

私は二十数年間大本山増上寺様に皆様ご存じの三縁クッキーを製造・販売を致しております。皆様には大変ご愛用頂きまして誠に有り難うございます。さて、当店が百味講に入講させて頂きましたのは十年前のことです。講の定例会に始めて出席して私は大変戸惑いました。当然そこに居られる方々は皆様お寺に関する職業ですので、何をお聞きしてもさっぱり解らずにいました。初めての御忌に参加して大変驚いたことは、練り行列に並んだときです。大勢の檀信徒の皆様の前を袴姿でお供物を捧げ、本殿に向かう時は気持ちが

高ぶり、無事にお納め出されるか不安でしたが、何事もなく終了した時は何ともいえない幸せを感じました。その時は増上寺様にお出入りさせて頂いたことに感謝し、また今後さらに誇りをもつて、百味講員として大いに活動して参りたいという気持ちを強くしました。

さて、この度百味講よりに投稿以
來がございましたが、私は洋菓子屋で
すので仏教・仏事のことはさっぱり解
りません。ですからお菓子のお話を少
々書いてみました。ここで大変面白い
事がありました。お菓子には、和菓子
と洋菓子があります。どちらも発祥は
神様、仏様への捧げ物でした。西洋で
は蜂蜜で鐵を作ったり、お菓子を作り
神への捧げ物としたそうです。日本で
は始め、お供物は自然の作物でした。
ですから皆様ご存じの果物の事を水菓
子と言いました。その後、米をつき餅
菓子等が供物の中にでて参りました。
しかし庶民の人たちはお菓子を楽しむ
ことはかなり後ときいております。和

菓子もやはり高貴な方々が茶道を樂し
み、その中でお菓子を嗜んでいたよう
です。ですから今でも京都とか、金沢
のように茶道が盛んなところは素晴ら
しい和菓子が数多く有るのです。今度
は当店のクッキーの事にふれたいと思
います。三縁の名称は増上寺様の三縁
山の三縁です。三縁クッキーは完全な
手作りです。葵の御紋を一枚ずつ手で
押して卵を塗り焼き上げます。ですか
ら機械生産の物と比べて、多少型が不
揃のところがございます。しかし機械
では作れない材料の割合というものが
あつて、皆様に美味しく召し上がつて
頂く為にはその割合を変更することは
できません。口解けの良さとしつこさ
のない甘味は、お年寄りの方やお子さ
まにもおすすめできるものと自負して
おります。この商品は増上寺様以外に
は販売しておりません。お菓子の有る
ところに争いはないといいます。増上
寺様へお立ち寄りの際は是非お買い上
げ下さるよう宜しくお願ひいたします。
皆様のお幸運を祈願して筆を置きます。



百味講理事
太田祥二

暖のれん簾

大本山増上寺様が西譽聖聰上人により開山されて以来、現在の藤堂ご法主台下で八十六代の法燈が継承されて来られました。この長い年月を経て御本山に関わってきた商人の数もまた計り知れません、お寺が法燈を継承されるように業種によつては商人も又、代々のれんを継承して來たわけでござります。私は今、浄土宗の法衣を商う衣屋として、百味講の一員として、ご本山にお出入りをさせて頂いております。先祖は江戸時代後期（宝暦年間）に長門の国（現在の山口県）中嶋村より江戸に出て商いを始め、屋号も出身地の名を取つて中嶋屋とし初代中嶋屋長右衛門が誕生、この屋号と代々の名は継承

され八代まで続きましたが、初代から衣屋を始めたわけではなく四代目か五代目の当主が、ご門前の利を生かして衣屋を開業したと聞かされております。ご本山の御忌大会の折、お練り行列に加わった百味講の先達として、紋付き羽織袴姿に山高帽子をかぶつて歩いたと言われて居りますが中嶋屋八世長右衛門、私の祖父で有ります、昭和十六年十二月に祖父は他界いたしましたが、おりしも大東亜戦争が勃発し日本は大変な時代を迎えたわけです。戦後の混乱の中で、商売も思うように立ち行かず、抱えていた下職人も仕事がなく、食べるため、生きるためにやむなく転職し、同様に廃業を余儀なくされ

た衣屋も少なくなかつたと聞いておられます。私は開戦の年の四月に片門前（現在の大門）で生まれ育ちましたので、子供の頃は芝山内が格好の遊び場でした、弁天池、からす山、納骨堂など今とは違つた風景が浮かんでいます。御本山の庫裏がまだ木造で、玄関を入れると広い廊下が続き広い部屋が幾つも並んでいたと記憶しています、節分の福升の準備で叔父に連れて行かれ、帰りがけにご馳走になつた豚汁の味は格別に美味しかつたと覚えております。その後、桜川小学校、愛宕中学校、芝商業高校と我が家の「のれん」の後継者としてレールの上に乗せられてきましたが、私はそれが素直に理解できずホワイトカラーのサラリーマンの道を選択しました、思い返してみれば、家業もその頃はまだまだ戦後の後遺症で衰退していた時期だったのかも知れません、若氣の至りと申しますが、衣屋という地味な業種から

自然と目が外に向いてしまい、すぐにはこの世界に入る決断が付かなかつたのです。憧れのサラリーマンになつては見たものの将来に希望がないまま、やはり自分で何か事業をやりたいと考え、六年で退職し姉の嫁ぎ先である化粧品店に転がり込んで初めて商売のノウハウを叩き込まれましたが、この業界も乱戦競争が進み始め独立開店の魅力が次第に自分で薄れ始めてきました、やがて家業も次第に活気を取り戻し、父一人で苦労している姿を見て、挫折を繰り返してきた自分によく家業を見直す機会が与えられたと思い、昭和五十年遅ればせながら法衣業界の仲間入りをさせて頂きました。我が家のは屋号もいつの頃よりか、古めかしい『中嶋屋長右衛門法衣店』の名が改められ『太田法衣店』として九代目叔父・長太郎、十代目父・三郎から私へ紆余曲折を繰り返しながら「のれん」を受け継いで参りました

した。私は今、世紀末を目前にして何かが大きく変革して行きそうな予感の中でこれから法衣店の在り方、役割を自分なりに模索して行きたいと考えております。末筆ながら、大本山増上寺御用達百味講の講員として今後も御本山のお手伝いをしながら、百味講の事業の活動にも大いに参加させて頂く所存です。完

すると、毎日を自然体で余りくよくよ考えないように過ごすことだと、お話し頂きました。吉野講元さんは、生涯現役これからも講の代表として益々ご健勝にお過ごし頂くことで、その存在感の大きさが講員一同で大きな目標であり、励みでもあります、どうぞこの後も米寿・白寿とお元気でお迎え頂きますよう、祈念申し上げます。

トピックス

吉野講元傘寿のお祝い



新執事長就任



野口善雄執事長

去る六月八日付にて大本山増上寺新執事長に野口善雄上人が就任されました。野呂幸進前執事長は健康上の理由により退任され、新たに群馬教区桐生組・淨運寺住職・野口善雄上人が新執事長として、藤堂御法主台下より辞令が発せられ就任されました。百味講と致しまして、慎んで野口新執事長のご誕生をお祝い申し上げますと共に、百味講への絶大なるご高配とお引立てを切にお願い申し上げる次第です。

軽く一杯、日曜日とあつて海岸線の国道は渋滞また渋滞の連続だ、途中の見学・散策は車中からの景色を楽しむのみに止まつた、今回のお宿、今井浜温泉に到着したのは夕景近くに成つてしましました。皆でゆっくり温泉につかり日頃の疲れをいやす。お楽しみの宴会が始まり、若いコンパニオンのおねえちゃんと共に、講員それぞれの芸が惜しみなく披露され二次会へと突入、懐を預かる幹事はひやひやしながら楽しい一夜を過ごしました。翌日は宿を後に天城ループ橋より天城越え、淨蓮の滝を見学、韭山にてイチゴを土産にする。三島のうなぎ屋にて昼食、またも小宴会となる、車中では大いに会話がはずみ、雑談の中にもお互いの情報交換の場と成つて研修旅行の名目にふさわしい素晴らしい旅行と成りました。

恒例・百味講研修旅行

百味講の年度末をしめぐくる研修旅行が去る二月二十一日～二十二日の両日行われた、今回はサロンカーを借切つて「河津ざくらをめぐる旅」をテーマに午前十時ご本山を出発と同時に小宴会で盛り上がりながら真鶴にて昼食、美味しい日本そばをすすりながらまた

野呂幸進前執事長が平成十一年六月十日・八十三歳のご生涯を閉じられました

恒例・百味講研修旅行

【訃報】

百味講の年度末をしめぐくる研修旅行が去る二月二十一日～二十二日の両日行われた、今回はサロンカーを借切つて「河津ざくらをめぐる旅」をテーマに午前十時ご本山を出発と同時に小宴会で盛り上がりながら真鶴にて昼食、美味しい日本そばをすすりながらまた

野呂幸進前執事長が平成十一年六月十日・八十三歳のご生涯を閉じられました

た、ここに講員一同慎んでご冥福をお祈り申し上げます。思い起こせば、平成四年四月執事長をご拝命以来、我が百味講へ並々ならぬお心配りを頂きました、特に平成八年秋に行われました御本山主催の久留米・大本山善導寺開基八百年慶讃大法要への団体参拝旅行には、野呂先生と共に百味講の有志多数が御一緒させて頂き二泊三日の思い出深い旅行も体験させて頂きました。その折には増上寺会館建設に対して大変意欲的にお話された事を思い出します。又、昨年は講の機関誌『百味講』より『第三号に寄稿頂き、先生の生い立ちから近況まで、ご苦労なさった様々な足跡もご披露されました、昨年の暮れ頃からお体の不調を聞き及んでおりましたが、本年の大本山増上寺御忌大会、更に総本山知恩院御忌大会を気丈にお勤め頂いたとお伺いしております。又、先生は二十一世紀に向けて増上寺会館及び講堂の建設にご尽力されましたが、建設半ばでご逝去された事はさぞかしお心残りだと存じます、誠に残念至極であります、慎んでご報告申し上げます。

合掌





仏壇・仏具

(株)濱田商店

〒111-0042 台東区寿2-10-9

TEL 03-3841-4965 FAX 03-3843-2518



葬儀・式典企画運営

富士典礼

〒142-0031 品川区豊町4-3-17

TEL 03-5434-2210 FAX 03-5434-0860



葬儀のご用命は
古い信用・新しいサービス

(株)牧野総本店

〒108-0074 港区高輪1-21-1

TEL 03-3445-0506 FAX 03-3445-0508



懷石料理

(株)ヤマザキ

〒253-0027 茅ヶ崎市ひばりが丘6-1

TEL 0467-86-0506 FAX 0467-83-9436



創業寛政二年 七代目

(有)石政石材店

〒108-0071 港区白金台4-5-7

TEL 03-3441-1483 FAX 03-3441-3156



思いとどける こころ伝える。

(株)日本香堂

〒171-0014 豊島区池袋3-18-12

TEL 03-3973-7111 FAX 03-3974-5647

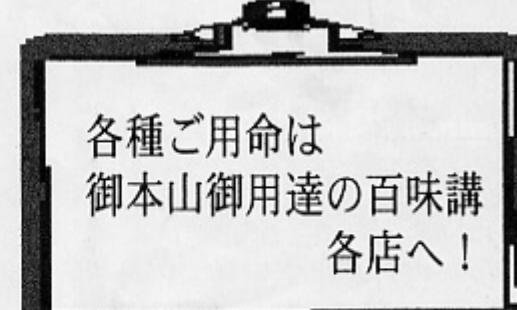


お花で思い出を永遠に

(株)花幹

〒143-0024 大田区中央8-36-5

TEL 03-3755-2120 FAX 03-3754-4687



各種ご用命は
御本山御用達の百味講
各店へ！

